

■総合計画進行管理総括表



「わたしたちはこんなまちにしてい」全般に対する評価と今後の対応

◇市の評価

<総括評価>

○全般に対する評価

- ・総合計画全体の評価として、基幹計画の評価の総数に変更はなかったが、個別計画の評価が前年度より相対的に下がっている。令和元年度も財政対策プログラムの集中対策期間であったことから、依然として縮小・廃止等されている事業があり、それに伴い、各評価が全体的に停滞していることを重く受け止めている。
- ・昨年度に新たに追加したリーディング事業の進捗については、各事業とも予定より遅れているなどの課題があるが、考慮すべき事情があるためであり、概ね順調であるとみなせる。
- ・財政対策によって、活性化のイベントへの補助金を削減したが、市民や事業者の皆様の熱意とお力添えによって、花火大会をはじめ、市民まつり、アートフェスティバル、スポーツの祭典、市内一周駅伝大会などほとんどの事業が継続して開催されたことは、市民と事業者と行政がそれぞれの力を発揮しながら、まちづくりに取り組んだ成果と考えている。

○今後の対応

- ・人口の微減傾向が続いており、少子高齢化及び人口減少を防ぐため、子育て世代を中心とした生産年齢人口層の転入増加、転出抑制を図る必要がある。子育て支援と教育のさらなる充実と、総合計画に位置付けた事業を推進することで、逗子市の魅力をさらに上げていくことが重要である。
- ・財政対策プログラム後の対応や新たな財政構造への転換へ向けた取組みが重要と考えており、民間事業者等の意見交換やネットワークの構築の場「platform ZUSHI BIZ」の立ち上げや企業版ふるさと納税制度などを活用し、企業誘致及び起業促進へつなぎ、個人市民税以外にも歳入の柱を作っていく。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、各計画においても課題が増大していくと考えられるが、その変化に柔軟に対応しながら、計画を進めていく必要がある。
- ・昨年から台風やがけ崩れなどの自然災害による被害が増加している。こうした状況に鑑みて、地震や津波以外の自然災害への対策にも注力していきたい。
- ・総合計画の進行管理においては、各審議会等から様々な課題のご指摘や今後の改善に向けたご提言をいただいた。これらの「現場の声」を真摯に受け止め、これからの取組みに活かしていきたい。

政策効果を高めるために、進捗を加速するために、工夫・重点化すべき点

○予算

- ・財政対策によって、現場の声を聴きながら、人件費の削減など、財政対策を進めるものと見直すものに整理を行ったことにより、令和元年度の財政調整基金残高は、昨年度既に目標達成している 10 億円を更に上回り、16 億円となった。
- ・財政対策プログラムは令和元年度をもって前倒しで終了としたが、市税収入の減少や、経常的経費の増加など、今後も厳しい財政状況が続くことが予想されるため、新しい財政運営方針を基本に、民間委託や広域連携などさらなる行財政改革を進め、財政調整基金に頼らない予算編成に徹し、公共施設の老朽化対策や子育て支援の財源確保、超高齢社会への対策に的確に 대응していく。

○人・組織

- ・頻発する自然災害などの課題に迅速に対応するため、環境都市部を 2 部長制にして強化を図った。
- ・葉山町とのごみ処理広域連携による歳入増と歳出減に係る効果額は 2 年間で約 1 億 4,000 万円となった。今後も引続き、葉山町との広域処理により効率的効果的な運営を継続していく。
- ・職員人件費について、令和 2 年度以降については、地域手当、扶養手当、住居手当などについて見直しを行い、令和 6 年度までに約 5 億 7,500 万円の削減を行うこととした。
- ・新たに地方公務員法に位置付けられた会計年度任用職員について、同一労働同一賃金の原則を含め、その能力を最大限引き出すことが重要と考える。

◇総括評価結果

柱	基幹計画評価			個別計画評価			施策体系評価			リーディング・基幹計画事業		
	㉑	㉒	㉓	A	B	C	a	b	c	(a)	(b)	(c)
第1節	-	1 (0)	0 (1)	-	5 (4)	0 (1)	8 (6)	6 (8)	1	15 (13)	10 (12)	1
第2節		1		1	4		11 (10)	5 (6)	1	15 (13)	4 (7)	2 (1)
第3節	-	-	1	-	4 (3)	1 (2)	1	9 (8)	2 (3)	9 (8)	12	3 (4)
第4節	-	1 (0)	0 (1)	1 (0)	3 (4)	1	5 (3)	5 (7)	5	5 (3)	5 (7)	5
第5節	-	1	-	1	2	1	6	1	4	6	1	4
合計	-	4 (2)	1 (3)	3 (2)	18 (17)	3 (5)	31 (26)	26 (29)	13 (15)	50 (43)	32 (39)	15

※ () の数字は、審議会等から指摘を受けた評価に変更した場合

◇総合計画審議会の意見／【Check】の観点からの意見等

<総括評価意見>

- 1 新型コロナウイルス感染症の影響により、計画が進捗しなかった点はある程度容認せざるを得ないと考ええる。現状の事業内容や実施手法では、コロナとともに生きる「新しい生活様式」とそぐわない部分もあるが、引き続き目標に向かって取り組まれない。
- 2 緊急財政対策が阻害要因となっている計画が散見される。財政対策を前提として、これから、いかに計画を推進していくかを検討されたい。
- 3 総合計画が策定されてから5年を経て、5つの柱を支える基幹計画の一部がいまだに策定されていないことは、行政の不作为といえる問題である。早急な策定が求められるが、計画を策定すること自体に課題が多いのであれば、今後の策定についての方針を明確に示されたい。
- 4 昨今、市内において崖崩れが発生している中で、4節の基幹計画である(仮称)都市デザイン計画が未策定であることは行政の取組みの方針が見えず、市民にとって不安材料である。生命を守るための重要な計画であり、策定に向けて真剣に取り組まれない。

<各基幹・個別計画の評価状況についての意見>

特になし

◇総合計画審議会の意見／【Action】の観点からの意見等

<今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項>

- 1 住民自治協議会の運営では、5小学校区のうちの2校区の創立から5年を経て、いまだに「要綱」を唯一のよりどころとしている。(仮称)自治基本条例や(仮称)市民主権プランの早急な策定が望まれるが、それらを成立させることが容易でないことは理解している。今後における市の方針・ビジョンを市民に示していくことが重要であり、その上で地域自治システムについては、住民自治協議会の活動を支える条例の制定を検討されたい。
- 2 次期実施計画の策定を検討する時期が近付いている。これに生かすため、総合計画前期実施計画の目標に対する進捗状況については、実績だけではなく、当初の目標に対する現状の分析を今後示されることを望む。
- 3 海岸の活用について、スポーツ推進計画との連携を図るなど、逗子の自然環境を広い視点で活用してもらいたい。
- 4 安全安心のまちづくりについては、市が主導していくことに加えて、他市町や公共交通機関などと連携していくことが重要であると考えられる。